

六〇社中新聞

藤枝市議会 新会派「ふじのくに」季刊紙 春号

2月議会 代表質問 平井 登 議員

北村市長マニラへの発展的取組みに期待

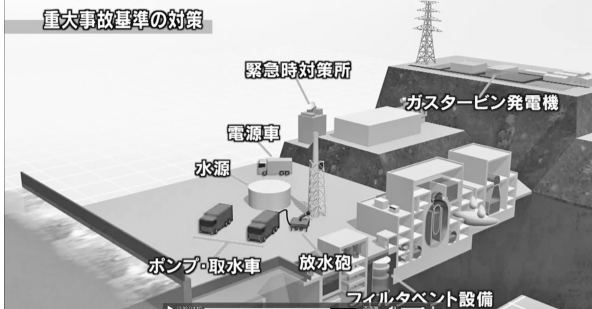
2月定例会議会二日目の2月29日、5会派（藤新会・市民クラブ・公明党・共産党・60社中）代表による質問が行われました。この「代表質問」では、先に示された「新年度の重点方針、重点戦略、予算・組織の概要」について、各会派それぞれの視点、論点に立った質疑と提言が行われました。過去最大の予算とともに「第五次総合計画・後期基本計画」、「ふじのくに健康都市創生総合戦略」などの本格推進、そして北村市政3期目のスタート年度となることから、執行部局はもとより議会としても中身の濃い市政運営とチェック機能が求められる中、私は次の質問を主にいたしました。

行政組織編成 方針について

問 危機管理課が危機管理センターに改編されるが、役割と機能をどうつづけるのか。
答 地震や風水害、また原子力対策や感染症対策など、様々な危機事案に対し、迅速な情報収集体制の構築、的確な情報伝達・指示・命令など、総合的かつ一元的な管理体制を確保する。そのために組織・人事体制を強化し、リアルタイムに監視する「オペレーションルーム」と「災害対策室兼学習室」、「相談窓口」、「防災グッズ展示コーナー」などを設ける。平時は市民が利用できるようつづける。

中山間地域エリア拠点づくりの推進について

問 浜岡原発の再稼働や事故を心配する市民に対する役割をどうつづけるのか。
答 浜岡原発の現状や本市が行う安全対策の取り組み状況及び原子力災害の知識などを、積極的に情報発信する。



「中山間地域エリア拠点づくりの推進」の一環として「優良田園住宅建設促進に関する基本方針の策定」が計画されるにあたって、次の2点を伺う。
問1 宅地供給可能性調査の進捗と住民とのワークショップの状況を伺う。
答 現在は地域別（瀬

協奏のまちづくり
遠藤くにお
080-1600-2228
endo@60shachu.jp

里想里創
平井のぼる
080-6920-0100
hirai@60shachu.jp

1月24日、葉梨公民館で行われた合同ワークショップの様子

問 今後の計画推進の流れを伺う。
答 田園環境と調和した住宅建設を進める手法として「優良田園住宅の建設促進に関する法律」に基づく手続きを想定。流れは、1 市が作成する基本方針案を県知事と協議、2 基本方針を公表し地域と事業者に説明会を開催、3 事業者（建築主）は計画の認定を市に申請、4 審査と認定（認定により以降の許認可が円滑化）、5 地権者の合意と農振法・農地法・都市計画法に基づき開発許可、6 開発・建設。

地域公共交通網 形成計画の策定 について

問 計画策定で着目する点と配慮する点を伺う。
答 まちづくりや観光振興と連携させることが主眼点である。また、市街地においては藤枝駅や市内の主要施設を結ぶ公共交通の確保。郊外や中山間地においては、高齢者や障害者など交通弱者の買物や通院などを支える生活交通の確保が主に配慮する点である。

攻めの農業推進 について

問 「産地パワーアップ事業」の助成内容は何か。
答 TPPにより外国との競争に直面している。外国に対抗しうる攻めの

（発行所）
〒426-8722
藤枝市岡田山一丁目十一番一
藤枝市議会 六〇社中
編集・制作・平井登
印刷所・樹共立アイコム

農業が必要であり、昨年制定した「藤枝市農業農村振興ビジョン」に基づき農業振興を図る。そのためには、意欲ある農業者などが高収益な作物・栽培体系への転換を図る取り組みへの支援が必要である。今回の事業対象者は、高糖度トマトを栽培する低コスト耐性ハウスの建設や柑橘類の改植を行う農業法人・団体への支援（補助率1/2以内）を2件予定している。今後に向けても新たな取り組み事業者との連携で攻めの農業の事業化を推進していく。

問2 本市の基幹産業である茶業は、長引く茶価の低迷と担い手不足、それによる生産量の減少や茶園の荒廃、荒茶生産組合の相次ぐ解散など、もうこれ以上後がない深刻な状況下にある。
そんな中、独自の経営戦略と生産・販売戦略により高い実績を上げている若手の茶経営者と、それを支える生産者、農協、輸出業者、製造ラインメーカー等が一丸となって取り組む事業に対し、農水省の「強い農業づくり交付金」を活用する新規事業が組み込まれた。
緑茶、碾茶産地としての競争力を強化するとともに、TPP



TPPを好機と捉え、藤枝茶のイノベーションにチャレンジする茶農家のみなさんに期待！

我が国は、お茶を輸出戦略の一つとして位置付けており、その輸出額を2020年までに150億円にする目標を立てている。TPP発効に向けてやる気のある農業者への支援策が打ち出された。この絶好のタイミングで、市内の若手茶生産者が中心となって中山間地域の茶業再生を目指しており、

写真提供：葉っぴい向島園

彼らが取り組む輸出向けの有機・無農薬抹茶の原料となる碾茶生産ラインを含む荒茶加工施設の建設は、本市茶業振興に寄与するものと期待している。本市としてもやる気ある生産者による強い農業づくりを後押しするため独自の補助金制度を創設するほか、推進体制についてもJA静岡中央会、JA経済連、JA大井川、志太榛原農林事務所とともに低コストで競争力が高い輸出向け有機・無農薬茶の生産拡大を図るためにできる限りの支援、協力をしていきたいと考えている。

また、このプロジェクトの成功がモデルとなり、本市からたくさん育っていくことにも大いに期待している。さらには、お茶以外の農産物についても、生産性の高い農業の振興に向けて、付加価値のある信頼性の高い生産を進め、地域ブランド力を上げていきたいと考えている。

今回初めての私の代表質問では、これまで2期8年における北村市政の「言わば「財政健全化策」によってもたらされた市債残高の大幅削減や基金残高の大幅増額など、折角減らした借金や増やした貯金を台無しにするかのように取られ兼ねない提言もありました。

職員採用枠拡大や農林商工業へのさらなる支援、あるいは新たな志太広域の交通インフラ構想など、言いたい放題ではなかったかと少し反省しています。しかし、私の真意は、北村市政によって再構築された本市の魅力と本市の活力に乘じて、さらに人を呼び込み、経済や福祉、教育を安定化・活性化するために、2期8年の優れた実績を礎に、さらなる攻めの政策へのチェンジアップ。それも、創造的課題へのチャレンジシップを高めたい。強い思いがあったからであります。

国が求める「地方創生」を、「一億総活躍社会」を、具現化している底力が藤枝市にはあると考えており、そんな期待を北村市長にお伝えして、私の質問を終えました。

創造的課題への チャレンジシップ を高めて欲しい！

茶以外の農産物についても、生産性の高い農業の振興に向けて、付加価値のある信頼性の高い生産を進め、地域ブランド力を上げていきたいと考えている。

本市は静岡県内23市中、21番目に許可された景観行政団体

『藤枝市景観計画』の早期作成を要望

2月議会
一般質問

遠藤久仁雄 議員



藤枝市庁舎5階からの眺望

2月の市議会一般質問で、私は『藤枝市景観計画』の早期作成を要望いたしました。藤枝市は、平成26年4月に静岡県に対し「景観行政団体」への移行を申請し、認可されています。実は、これは静岡県内の23市中で、21番目という遅い移行ということをご存知でしたか。そして2年経過した現在でも、いまだ市の景観施策の指針となるべき『景観計画』が作られていません。このことからして、私は藤枝市がこれまで景観に対して消極的な姿勢であったと感じています。皆さんは、どのように感じていらっしゃいますか。普段はあまり景観について考えることはないかもしれませんが、実は景観は私たちの暮らしにとって、とても大切なことだと思いませんか。私たちが生活する上で、第一に安全・安心を求め

ますが、実はそこに美しい景観があつてこそ、初めて幸せな暮らしができるのではないのでしょうか。景観は、老若男女いずれもが平等に味わえるものです。良好な景観は、人を呼び込みます。観光も発展するし、市内外からの集客も見込まれます。そして何より、景観を保持しようとする市民の意識が連帯感を生み、地域の活力を育み、地域の課題を共有化し、そこから主体的なまちづくりが生まれます。景観を通じて、市民の輪が広がることにもなります。幸せを共有することも可能だと考えます。



「一里山」の旧東海道松並木

くの歴史的遺産を失ってしまったようです。藤枝・岡部という二つの宿場町を有し、50・60年ほど前には、美しい町並みや田中城の堀跡なども残っていたのですが、開発の波には勝てませんでした。そのことは残念に思いますが、その代わりに多くの皆さんがこうして藤枝の地を選んで生活されています。市民の皆さんの感想を見ても、「生活しやすい」という評価が下され、環境面での満足度が高い地位にあるのは喜ばしいことです。それでしたら、この景観をこれから自分たちの手で守って行けるように、市当局に早期に『景観計画』を作成してもらい、その計画の下で、自分たちが暮らす地域についての関心を高め、自分たちの手でまちづくりを始めませんか。現在、藤枝市では『景観計画』を作成中で、平

選ばれるまちふじえだの4K施策のひとつ 『交通安全日本一』をあらためて質す！

11月議会
一般質問

遠藤久仁雄 議員

「交通安全日本一」について、11月議会一般質問を行いました。質問の内容と、そこから分かったことや問題点を整理します。

問 藤枝市は、全国的に見ても、事故発生率が高いのではないのか。
答 静岡県自体が全国ワースト5位である。藤枝市は、県内で中位である。へつまり、藤枝市は、全国の市の中で、最も事故の多いグループに入っている。

問 市内の交通事故の分析を、どのようにされているか。
答 ①追突、出会い頭の事故が多い。②高齢者の関係する事故が多い。③夕暮れ時から夜間にかけての事故が多い。④交差点での事故が多い。

問 「多い」をキーワードにして、分かりやすく分析されていたか。
答 道路上の交通安全表示に関しては、本年度警察が横断歩道を重点的に整備（白線の引き直し）をしている。それでもまだ予算不足のようで、完全実施とはいかない。そこで市が特別に資金を出して、警察と協働で市内の全ての横断歩道をきれいに引き直すことはできないのか。

問 藤枝市は、全国的に見ても、事故発生率が高いのではないのか。
答 静岡県自体が全国ワースト5位である。藤枝市は、県内で中位である。へつまり、藤枝市は、全国の市の中で、最も事故の多いグループに入っている。

問 市としての、1件でも事故が防げるよう、ドライバーや歩行者に対し、知恵を絞った呼びかけが必要ではないか。藤枝ならではのアイディアを、市民みんなで考えたいと思うが如何か。
答 防止策を実施する。

問 市としての、1件でも事故が防げるよう、ドライバーや歩行者に対し、知恵を絞った呼びかけが必要ではないか。藤枝ならではのアイディアを、市民みんなで考えたいと思うが如何か。
答 防止策を実施する。

平成27年度 会派・60社中 政務活動費のご報告

交付額：600,000円 (30万円×議員2人)
支出額合計：638,452円 (不足分は議員負担)
★下記のとおり、有効活用させていただきました。

科目	支出金額	摘要
研修費	112,100	「財政分析」研修に2人で二日間参加
広報費	380,505	『60社中新聞』を夏と春2回折込発行
資料作成費	22,540	資料作成にともなうコピー代など
資料購入費	17,576	議員の資質向上に必要な図書購入
事務所費	105,731	ネット通信費、文具消耗品など



や区切りなどは、本来ないはずであり、焼津市や島田市などと、より連携した取り組みが求められるのではないだろうか